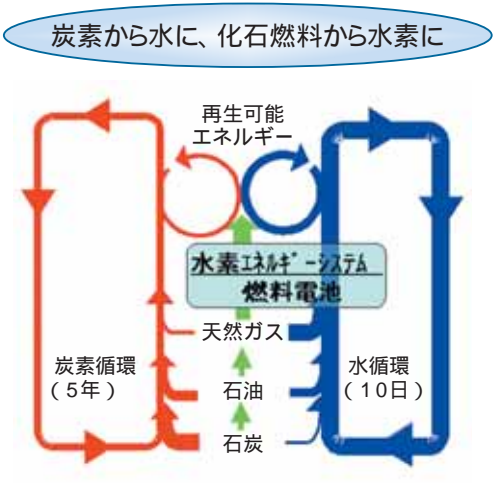


した。田中プロジェクトは黒潮の潮流を利用して発電し、その電力を使って水の電気分解を行うプロセスのフェジビリティスタディーおよび実験を行いました。渡邊プロジェクトは水素循環過程で有効にエネルギー変換を行う燃料電池の材料探索の基礎から実際の応用面に至るまでを詳しく調べました。

総合評価 水素エネルギーシステムは将来の社会の持続的発展には必要不可欠であり、その研究は新産業基盤構築に大いに寄与するものである。本研究では必要な課題を大学の持つポテンシャルを適切に組織化して取り組んでいる。よって、研究の目的、組織、方法ともに優れている。

外部評価委員： 前田久明先生(日本大学)
福田健三先生(エネルギー総合工学研究所)



学際プロジェクト研究

「人間・生活・都市・学」

(北山恒代表)



この研究プロジェクトを構成する都市・生活技術の4グループではそれぞれに研究会を開催し、多くの研究成果を発信してきました。

21世紀初頭、世界的に日本の小住宅に注目が集まっています。日本は住宅の建設に係わる技術では世界で最も高い水準をもつ国であり、多数の建築家が高度な技術をもったエンジニアとともに住宅設計に参入しています。この小住宅が生まれる背景として、土地所有の制度や建築基準法が生み出したフリースタンドイングの戸建て住居で埋め尽くされている日本の都市構造、そして家族形態や社会状況などの基盤メカニズムがあります。本学の研

究グループでは、このような都市の問題や都市郊外の問題を検討し、このような社会背景から生み出される理想的住居モデルを開発しました。

総合評価 地球環境破壊、文化の荒廃に直面している現在、真に豊かな生活空間の実現を目指す分野横断的研究であり、極めて意義深くかつ重要な研究である。研究の対象を「横浜」に置き、そこにシーズを求めて研究を深化させようとするスタンスは共鳴できる。今回は中間評価であるが、今後どのように発展していくのか期待される。

外部評価委員： 秋山宏先生(日本大学)
内藤廣先生(東京大学)

2005 Highlights